

みやこはし 京の橋しるべ 第15号

(平成31年3月発行)

◆ 木製高欄と木組み工法について

今回は、市内に数少ない木製高欄*とその施工技術(木組み工法)にまつわる事例を紹介していきます。 ※:橋りょうの両側に設置されている欄干の土木用語です。

◆ 木組み工法について

渡月橋・三条大橋・巽橋・新橋などの木製の高欄は、昔から部材を頑丈につなぐ技術の「木組み工法」により施工されています。木組み工法とは、釘などの金属を使わずに木の性質や木目の流れを生かして柱や梁などの部材をつなぎ合わせる工法です。

また、この工法は、在来工法(釘などの金属により部材を接続する工法)が確立する以前に多く用いられていた工法であり、現在では寺社仏閣などの伝統的な建築物に多く用いられています。



三条大橋の高欄



◆ 事例1: 渡月橋の木製高欄復旧

木組み工法の特徴を伝える事例として、渡月橋の木製高欄の復旧工事について紹介します。

昨年9月に本市を直撃した台風21号(最大瞬間風速39m/s)は、渡月橋下流側の高欄をほぼ全長に渡って転倒させました。

しかし、転倒した高欄の主な木材は折れたり、壊れたりしませんでした。



被災直後の渡月橋

これは、台風により高欄に受ける力を転倒することにより柔軟にかわすもので、破損したのは、木材同士を留める木栓(もくせん)だけでした。

そのため、高欄本体は全て台風前のものを再利用しており、この「匠の技」といえる「木組み工法」が渡月橋を守ったと言えるでしょう。

でも、今回の復旧では上下流の高欄の両方を、もう少し強くしたいと考え、「匠の技」に現代の私達が「もうひと工夫」を加えています。

渡月橋にお越しの際は、この工夫も確認ください。



復旧後の渡月橋

◆ 事例2: 巽橋の木製高欄更新

木組み工法の施工事例として、巽橋の木製高欄の更新工事について紹介します。

右の写真は柱と笠木(かさぎ)の接続時の写真です。接続部の突合部分は細やかな切り込みが施されており、金属を用いずに木材をつなぎ合わせるには、非常に高度な「匠の技」が必要となることがわかります。

なお、今回の更新工事では部材すべてに市内産(みやこ杉木)の檜を使用しており、宿泊税を利用して施工しました。



更新工事中の巽橋

◆ 木製高欄の継承

橋りょうの高欄の多くは、経済性や耐久性の理由から、木製であったものが金属やコンクリート製に更新されています。そのため、木組み工法を含めた伝統的な技術を用いた高欄などの施工機会が減少しており、技術の継承が困難となっています。

本市の木製高欄の多くは、架橋当時の外形を保ちながら更新されており、歴史的な意匠や趣を現在に伝えています。このような木製高欄を後世に継承していくことは現代を生きる我々の使命と考えています。

建設局では、平成31年度に新橋の木製高欄の更新を予定しており、今後、三条大橋の木製高欄の更新を計画しています。このように、限られた木製高欄を適切に更新していくことで木製高欄の文化や伝統的な技術などを後世に伝承していきたいと思えます。

〈京の橋の紹介⑭〉

丸太町橋（まるたまちはし）
 場 所：京都市上京区俵屋町
 河 川 名：一級河川 鴨川
 橋の種類：鋼鈹桁橋
 橋 長：92.0m
 幅 員：22.8m
 完 成 年：平成3年（1991年）

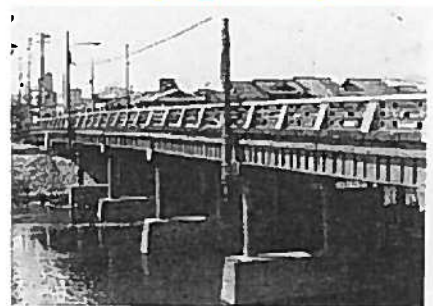


現代の京都の都市基盤をつくるきっかけとなったのが、明治末期にスタートした京都市三大事業（第二琵琶湖疏水の開削・水道事業・道路拡幅及び市営電気軌道敷設）です。この中で丸太町通の整備が進められ、水害のたびに流れる簡単な橋であった「丸太町橋」は大正2年にコンクリート橋に架け替えられました。

当時の丸太町橋は、橋長が106.3m、幅員が21.8mあり、中央部に軌道敷が設けられ、市電（路面電車）が通行していました。

平成3年、その後の老朽化に伴い、現在の橋に架け替えられました。この橋は鋼製の桁の外側に化粧板（鋼製）が取り付けられていることから、桁側面の連続性を強調した近代的なデザインとなっています。

今後、現在実施中の「いのちを守る 橋りょう健全化プログラム」（第2期）において、丸太町橋は耐震補修工事を行う予定であり、地震に強い安心安全な橋に生まれ変わります。



大正2年の架換え時
 (出典：村松博「京の橋ものがたり」)

◆ 京の橋しるべについて

私たち建設局橋りょう健全推進課では、市民の皆様の安心・安全な生活を守るため、京都市が管理する「橋」の耐震補強と老朽化修繕を進めています。

その取組を市民の皆様にもっと知っていただくため、また、私たちの日常生活を支えるかけがえのない「橋」について関心を持ってもらい、身近なものとして親しんでいただくため「京の橋しるべ（みやこのはししるべ）」というリーフレットを定期的に発行し、市民の皆様に「橋」にかかわる様々な情報を発信しています。

「道しるべ」は、道路に目的地までの距離や方向を示し、道案内のために設置されたものですが、「橋しるべ」は私たちの「橋」に関する取組などをわかりやすくお伝えして（案内して）いきたいということで名付けました。

発行・お問い合わせ 京都市建設局橋りょう健全推進課 (TEL 075-222-3561)



京都市では、橋の歴史や補修取組、有名な橋を紹介した冊子「京の橋しるべ」と、道路や公園などの損傷箇所を投稿するアプリ「みっけ隊」を配信しています。

詳しくは Web で！

[京の橋しるべ](#)

検索



&

[みっけ隊 募集中](#)

検索

